

平成28年度 第1回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録（要旨）

■開催日時・場所

平成29年2月23日（木）午前10時00分から午前11時20分まで
防府市文化福祉会館 3階4号 大会議室

■次第

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員依頼状の交付
4. 会長・副会長の選任
5. 議題
(1) 防府市における公共交通をとりまく現状等について
(2) 地域公共交通網形成計画の策定方針について
(3) 今後のスケジュールについて
6. 閉会

■配付資料

	資料名
1	平成28年度第1回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	防府市地域公共交通活性化協議会委員名簿
3	防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱
4	資料1 防府市の公共交通をとりまく現状等について
5	資料2 地域公共交通網形成計画の策定方針について
6	資料2-1 市街地循環バス実証運行計画（案）について
7	資料2-2 市街地循環バス実証運行ルート図
8	資料2-3 高齢者等外出支援制度のお知らせ
9	資料3 今後のスケジュール（計画策定までの流れ）

■会議風景



■出席者名簿

敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠	
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科教授	古田 健一	出席	
		徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	欠席	
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会 会長	広石 聖	出席	
		防府市女性団体連絡協議会 会長	大村 弘子	出席	
		防府市老人クラブ連合会 理事	田中 太一	出席	
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席	
		防府商工会議所 商業部会長	坂本 恵次	欠席	
		(一社)防府医師会 副会長	木村 正統	欠席	
		市民代表	田邊 千寿子	出席	
		市民代表	清水 重子	出席	
		公共交通事業者等	防長交通(株) 取締役営業部長	寶迫 啓之	出席
	中国ジェイアールバス(株) 運輸部生活交通活性化推進室長		河内 政好	出席	
	西日本旅客鉄道(株) 広島支社徳山地域鉄道部 防府駅長		岡田 裕哉	出席	
	湯田都タクシー(株) 常務取締役		後根 達成	出席	
	(有)野島海運 取締役		阿部 幸典	出席	
	(公社)山口県バス協会 専務理事		柳木 和人	欠席	
	(一社)山口県タクシー協会 理事		大隅 洋三	出席	
	山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部 書記長)		手嶋 謙介	出席	
	道路管理者 港湾管理者		中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	丹後 浩一	出席
			山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	伊藤 扱治	出席
		山口県防府港務所 主査	野村 洋一	出席	
	警察	防府警察署 交通課長	豊永 和広	出席	
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	宗像 恵太郎	出席	
		山口県観光スポーツ文化部 交通対策課長	浜口 和彦	出席	
	計画作成市	防府市 副市長	中村 隆	出席	
	事務局	総合政策部 部長	平生 光雄		
		総合政策部総合政策課 課長	白井 智浩		
総合政策部総合政策課 課長補佐		田村 裕之			
総合政策部総合政策課企画係 係長		桑田 智史			
総合政策部総合政策課企画係 主任主事		藤崎 雄士			
総合政策部総合政策課企画係 主事		飯分 徹			

■議事録

1. 開 会

副市長あいさつ

2. 委員紹介

委員・事務局紹介

3. 委員依頼状の交付

4. 会長・副会長の選任

会長は、防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱第4条第1項に基づき、委員による互選の結果、古田委員が会長に選任された。副会長は、防府市地域公共交通活性化協議会設置要綱第4条第1項により、会長が中村隆委員を指名した。

会長・副会長あいさつ

5. 議事

会長が、会議の公開について確認を行った後に議事を進行した。

(1) 防府市における公共交通をとりまく現状等について

(2) 地域公共交通網形成計画の策定方針について

事務局より資料1、2、2-1、2-2、2-3を説明した。

- A 委員 人口密度と公共交通がどのように関連し、バス停から半径を示しどれだけの人口をカバーしているか等、資料として出てくると非常に分かりやすい。
- 事務局 本日は現状の概要をお示ししているが、今後、鉄道やバス停などの利用しやすさなどについてもアプローチして説明していきたい。地域公共交通網形成計画を策定するための取組を来年度から進めていくために今回集まっていたいており、しっかり意見をお聞きしながら資料をご提示したい。
- B 委員 路線バスの利用者や対象者はどれくらいいるのか、各路線でどのくらい利用される方がいるのか、日常で使う場合と外出の際に使う場合なども含め理解しておく必要がある。
- 事務局 バス事業者が乗降調査を毎年実施しており、どこで乗られてどこで降りられたか、何人乗られたかの調査を実施している。そのデータを活用し、どの路線でこういった利用があるか、アンケート調査なども含めて分析をしたい。
- 会 長 詳しいデータは次回以降になる。
- C 委員 都会ではタクシーの初乗り料金が変わるが、山口県では従来どおりか。
- 事務局 防府市内においての初乗り料金はタクシー会社によって違い、料金体系は従来どおり。
- D 委員 公共交通体系の再編を考える際に、利用者のニーズを踏まえ検討するとともに、各交通事業者の立場からも議論を進めていただきたい。タクシー事業者は非常に経営が厳しい状況である。これから計画策定や施策を進めていく上で、駅中心部のエリアにどのような影響があるかを調査すると思うが、タクシー事業者の経営の観点からも分析をお願いしたい。各交通モードの活性化につながるための計画策定には大いに協力したい。

- 会 長 市街地循環バスの実証運行の際には、バス利用者のデータだけではなくて、タクシー事業者への影響がどれくらいあるのかも調査する必要がある。実証運行の前後の分析が重要。事業者の立場も尊重して計画を策定する必要がある。
- A 委員 地域公共交通網形成計画を策定するにあたり、既存のバス路線をどうするか、新しい交通モードの導入、赤字が出ている路線をどうするか、そこをしっかりと考えていくことが重要である。持続可能な公共交通を防府市がしっかり作り上げるのが最終目標であるが、そういった部分が本日の会議では伝わりにくいのではないか。
- D 委員 地域公共交通網形成計画のキーワードは複数ある。1つは、持続可能な公共交通の姿を示す計画であること。山口県の乗合バスの輸送人員については、ピークの昭和40年代の半ば頃から比べると、6分の1ほど減少している。原因として考えられるのは、まずはモータリゼーションの進展である。2つ目は、人口減少と高齢化を考えた計画であること。3つ目はまちづくりと連携を図ること。地域によって実情は様々だが、人が多く集まる施設と居住エリアを効率的に結ぶなど地域全体を考えた公共交通網を再編する必要がある。また、運転士のなり手が少なくバス事業者やタクシー事業者も経営を効率的にしていけないとやっていけない状況にある。JRに関しても新幹線以外のローカル線は利用者が減っている。そのような状況で、使いやすい公共交通という利用者側の視点と事業者側の経営の視点の両面から公共交通の再編をしていくとともに、まちづくりと連携を図りながら、地方公共団体が中心となって計画を作成することが重要である。
- 会 長 今回は、第1回目の会議ということで、具体的な内容に踏み込んでいないが、今後はまちづくりとの関連性も分かるような資料の提示をお願いしたい。
- E 委員 久兼地区は高齢者が多くマイカーを運転している方も少ない。新たな公共交通モードを導入することに抵抗があり、既存のバス路線を残してほしい。
- 会 長 市周辺部も含めた、地域全体の公共交通の再編が計画策定の重要な視点となる。
- F 委員 計画策定の際、路線の再編については、核となる地域をつなぐ幹線バスとその地域と拠点をつなぐフィーダー系統を分けて考えることとなっている。核となる地域から枝分かれした需要が少ない路線については、デマンドタクシーや市の自家用有償運送などに振り分けて需要規模に合った効率的な交通を構築するなどして計画を作ることが大切である。
- 会 長 市全体を見渡して見直していく中で、具体的な話は今後議論する。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より資料3を説明した。

- F 委員 市街地循環バスの実証運行調査について、運行に係る手続きは、少なくとも8月末までに提出しないと処理が間に合わない。また、市街地循環バスの実証運行を終えて12月に本格運行する場合には、国のフィーダー補助の申請をされると思うが、6月30日までに申請しなければならない。
- 事務局 実証運行を10月から2ヶ月間行い、そのまま本格運行ということではない。実証運行調査の検証結果を計画に反映し、本格運行は平成30年度の10月以降に開始できるよう考えている。

6. 閉会
